

2006 年度 JAL 中堅職員ステップアップ研修(2)  
2006 年 7 月 16 日(日) 12:30~15:00

## 情報リテラシー支援

講師：藤田節子（川村学園女子大学）

### 目的

公共図書館が地域住民の情報リテラシー支援の拠点として活動する意義、役割、方法などを学び、情報リテラシー支援講座の実施計画策定をする。

### 目標

各図書館で実施可能な情報リテラシー支援講座を策定し、互いに検討・発表しあい、企画のヒントを得て、講座終了後自館で実施することにつなげる。

### 第1部 講義(12:30-13:40)

#### 1. 講義前アンケート結果報告(別紙1参照)

- (1) 情報リテラシー支援講座の種類
- (2) 実施していない理由

#### 2. 情報リテラシー支援の必要性

- (1) 情報環境の変化
- (2) 公共図書館の役割

#### 3. 情報リテラシーとは

- (1) 情報リテラシーの定義
- (2) 情報リテラシーの能力

#### 4. 情報リテラシー支援の現状

- (1) 情報リテラシー支援講座の現状
- (2) 情報リテラシー支援の事例

#### 5. 利用者の情報探索行動の実態

- (1) 情報探索の方法と実態
- (2) OPAC 検索の事例

#### 6. 情報システム構築の考え方と支援方法

- (1) 情報システム構築のピラミッド
- (2) 情報リテラシー支援の方法

## 7. 情報リテラシー支援講座の企画

(1) 実施計画書の作り方

(2) 実施している事例と資料

## 第2部 演習(13:50-15:00)

### 1. 情報リテラシー支援講座の企画作成

事例や資料を参考にして、意見交換しながら、各自の図書館における情報リテラシー支援講座の企画を練り直す。

### 2. 企画の検討と発表

グループごとに各企画案を発表し、最も良いと思われる案を公開する。

### 3. 全体のまとめ

以上

## 別紙1 「情報リテラシー支援」事前アンケート結果

### (1) 情報リテラシー支援講座の種類

図書館利用案内	6 館
OPACの使い方	5 館
データベース検索	2 館
インターネット情報の検索	2 館
情報探索法	4 館
情報利用法	なし
情報倫理	1 館

### (2) 実施していない理由(9館)

#### 必要性

- ・ 講習を行う必然性があるのか、必要性がない
- ・ 利用者からの要望がない
- ・ 必要性を感じない
- ・ 考えたことがない
- ・ 考えたこともない人たちばかり

#### 担当者

- ・ 誰がするのか
- ・ 企画した職員が担当となり負担になる
- ・ 指導できる職員がいない
- ・ 友の会に年1回講習を受けてもらい指導補助をしてもらっている

#### 時間

- ・ 仕事が増える
- ・ 上司の理解がない
- ・ 他の仕事が忙しい
- ・ やれる余裕がない
- ・ 準備に費やす時間がない
- ・ 余裕がない
- ・ 時間をとりにくい
- ・ 新任職員(年5人全職員の20%にあたる)の指導に追われている

#### 方法

- ・ いつどういうふうに何をするのか
- ・ どうしていいかわからない

#### 設備

- ・ PCがない
- ・ 研修の端末がない

#### その他

- ・ 来館者に説明
- ・ カウンタで随時説明
- ・ 図書以外の資料が多く利用目的が異なるので個々のケースに応じた方がいい
- ・ 参加者が限られる
- ・ 中学の総合学習で情報リテラシー支援の出張講義を学校で行う
- ・ 休館日に学校に講義と開放して利用させる
- ・ 小中学校の先生対象の講義を夏休みにおこなった

以上